

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年九月度 入選句（投稿総数二千四百二十三句・小中学投句数千八百十三句）

特選

太陽の光で きらり 君の汗 大垣市 岩田 愛菜(小六)

俳句を作るにあたり、先ず気をつける事の中に自然観察(客観写生とも言う)がある。次に「言い過ぎは言い足りない事より良いない」と言われている。読者に対して余韻を残すべきである。その点揚げ句はこれを十分に充てている。太陽の光で輝く人の汗をよく見つけきりと表現している。又君の汗と言う下五がすばらしい・親友なのか、恋人なのか、読者にワクワク感を与えてやまない。大変上手な句である。

かたつむりやさいのいろのうんちする 大垣市 林田 友結(小三)

普通かたつむりは家で飼う場合、キャベツとか野菜の葉を与える。当然自然の中で木の葉を餌にしている。一見糞は黒く見えるがよくよく見ると野菜の色をしている。与える野菜の種類によつて色が変わる事も判っている。作者の観察眼に脱帽します。

せんぷうき前でしゃべるとへんなこえ 大垣市 福島 由霸(小四)

俳句は五・七・五の十七音で作られています。その為、類想の無い句はなかなかできません。それを打破するには、どれだけ新しい発見が句の中にあるか。これが大切です。音には三要素があり、高い音低い音(これは音の振動数で決まる)強い音(振幅の大きい音は強い)音色(波型による)扇風機の前で声を出すこの三要素が変化して変な声となります。作者はほんとうによく見つけました。

秀逸

灯台の石にしみつく青葉かげ 大垣市 児玉 菜摘(小六)

真夏の日お茶を一口深呼吸 大垣市 原田 佳歩(小六)

秋の夜虫の音響く音楽会 美濃加茂市 後藤 律希(中二)

からすさん木にあるかきをひとりじめ 大垣市 金森りょうすけ(小二)

守宮さんいなかの家の守り神 大垣市 大関 綾華(小三)

まんじゅしやげ友と作ったネックレス 大垣市 藤原 唯良(小四)

コスモスが風にふかれておどってる 大垣市 大橋 美空(小四)

美しい声きこえるよ小鳥来る 大垣市 河合 笑鈴(小五)

宿題のえんぴつとめてかき氷 大垣市 森 麻 亜子(小五)

ざくろの実おぼけの顔にそっくりだ 大垣市 大和田 真瑚(小三)

入選

つゆあけて空を見上て夏もよう	大垣市	富田	琳也(小六)
つゆあけて空を見上げる雲一つ	大垣市	山内	愛梨(小六)
水とうの麦茶を飲んで生きかえる	大垣市	石田	遙(小六)
暑い日のむぎ茶をそそぐ母の愛	大垣市	小川	智矢(小六)
川の中青葉が一つ旅してる	大垣市	服部	凌典(小六)
蟬時雨季節の足音ひびいてる	美濃加茂市	深澤	幸也(中二)
蛍たちきれいな光でプロポーズ	美濃加茂市	太田	貴悠(中二)
あきみつけいろいろひろつてたのしいな	大垣市	河本	ゆず(小二)
リンリンとこうろぎたちがはなしあい	大垣市	さかえ	こたろう(小二)
流れ星残りの宿題おねがいね	愛知県名古屋市	井上	雄太(小四)

入選

秋の空つばめが帰るまた春に	大垣市	岩田	さくたろう(小三)
日焼して水着のあとがついていた	大垣市	坂本	怜唯(小三)
きれいだな赤のキャンパス秋の暮	大垣市	川瀬	雄大(小四)
爽かな朝日むかえる小鳥たち	大垣市	村上	修斗(小四)
外に出て空をみあげ夕月夜	大垣市	今津	明彩(小四)
ふうりんが風にふかれてチリンチリン	大垣市	川瀬	凜珠(小四)
とんぼさん田んぼの上でおにごっこ	大垣市	服部	瑠花(小四)
はすのみははちのすみたいになっている	大垣市	坂本	蒼奈(小五)
徒競走秋風よりもはやいかな	大垣市	棚橋	万桜(小六)
台風で知るろうそくの大切さ	大垣市	森	奏翔(小三)

選者吟

百疊の坊を抜け往く鬼やんま

誠